

# 第14回年会報告

## 第14回年会報告

日本ケミカルバイオロジー学会第14回年会は、2019年6月10日から12日の3日間、ウインクあいち（愛知県産業労働センター）にて開催されました。中部地区で初開催の年会となりましたが441名の方々にご参加いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

本年会では、口頭発表36題、ポスター155題の研究発表に加え、新学術領域「ケモユビキチン」との共催シンポジウム、招待講演と一般発表で構成する新たな形式での2つのシンポジウム、そして特別講演を行い、3日間を通じて活発な議論が交わされました。

年会企画のシンポジウムでは本地域で活躍する若手を中心としたプログラム委員による2つのシンポジウムを企画しました。1つは「天然物からのケミカルバイオロジー」と題して、上田実先生、難波康祐先生にご講演いただくとともに一般発表から2演題を選抜して、天然物化学研究を武器とするケミカルバイオロジーの最先端研究についてご発表・ご討論いただき、もう1つは「in situケミストリー」と題して山東信介先生、清中茂樹先生にご講演いただくとともに一般演題2題を選抜して、細胞内夾雑系における精緻な化学についてご講演・ご討論いただきました。両シンポジウムの招待講演4名の先生方の演題は次の通りです。

### <天然物ケミカルバイオロジー>

難波 康祐 先生（徳島大学）

「天然の鉄キレート剤「ムギネ酸」のケミカルバイオロジー研究」

上田 実 先生（東北大学）

「天然物をベースとした植物ケミカルバイオロジー」

### <In situ ケミストリー>

清中 茂樹 先生（名古屋大学）

「受容体の自在な活性制御を実現する配位ケモジェネティクス」

山東 信介 先生（東京大学）

「In Situ Chemistry: 核偏極NMRを利用した生体分子イメージング」

また、新学術領域「ケモユビキチン」との共催シンポジウムについては、次の先生方にご講演いただきました。

### <共催ミニシンポジウム>

佐伯 泰 先生（東京都医学総合研究所）

「ケモテクノロジーと質量分析計を活用したユビキチンコードの解読」

石川 稔 先生（東北大学）

「低分子によるタンパク質ノックダウン」

藤田 宏明 先生（京都大学）

「ケモテクノロジーを利用した直鎖状ユビキチン鎖の機能解析と制御」

沖米田 司 先生（関西学院大学）

「嚢胞性線維症治療薬開発を目指したRFFL ユビキチンリガーゼ PPI 阻害剤の探索」

伊藤 拓水 先生（東京医科大学）

「CRBNを標的とする薬剤の分子機構」



さらに、招待講演ではケミカルバイオロジーとオミックス研究の融合分野を切り拓かれたCravatt先生をお招きし、小田吉哉先生（東京大学）に座長をお務めいただき、次の演題でエキサイティングな講演とディスカッションを行っていただきました。

#### <招待講演>

Benjamin F. Cravatt先生（The Scripps Research Institute）

「Activity-based proteomics ・ protein and ligand discovery on a global scale」

ポスター発表でも例年同様多数の演題申し込みがあり、本年会ではポスター賞候補演題についてポスターブリーフィングを行っていただき、ポスター会場ではシニアも若手も入り交じって活発なディスカッションが行われました。また、審査委員の先生方により、ポスター賞の厳正な審査が行われました。本年も英国王立化学会（RSC）のご厚意によりRSCポスター賞が設けられ、また本年会ポスター賞では、従来のポスター賞に加えて学生の研究奨励を目的にポスター奨励賞を設けました。次の通り合計7名の若手発表者にポスター賞が授与されました。

#### <RSC・Organic & Biomolecular Chemistry ポスター賞>（敬称略）

・徳永 啓佑（九州大学大学院薬学府）

「不可逆阻害剤への応用を目指したひずみ解消型反応基の開発」

・三津山 智絵（名古屋大学大学院理学研究科）

「超耐光性リン含有蛍光色素を用いた膜標識剤の開発と応用」

#### <ポスター賞>（敬称略）

・澤崎 鷹（東京大学大学院薬学系研究科）

「触媒的光酸化はタウのアミロイド形成を阻害する」

・松尾 和哉（北海道大学電子科学研究所）

「分裂期染色体の光操作」

・吉井 達之（名古屋工業大学工学研究科）

「細胞内タンパク質の局在を動かすオプトケミカルジェネティクス」

#### <ポスター奨励賞>（敬称略）

・梶原 啓司（名古屋大学大学院理学研究科）

「環境応答性蛍光脂肪酸を用いた脂肪酸代謝過程の可視化」

・向山 海凧（筑波大学生命環境科学研究科）

「MAO26の構造訂正とTJ開口活性に関する構造活性相関検討」

最後に、多くのご支援とご高配を賜りました、協賛企業や助成財団、学会関係者のみなさま、中部・東海地区の大学ならびに名古屋市立大学のみなさまに、重ねて厚くお礼を申し上げます。